

令和 7 年度 県立下妻第一高等学校自己評価表

目指す学校像	学校教育目標 ○「文武不岐」実践のもと、知・徳・体を兼ね備えた人間性豊かな生徒の育成 ○グローバルで活躍できる「アントレプレナーシップ」をもった生徒の育成 目指す学校像 ○主体性をもって様々なことに挑戦でき、自己の可能性を広げられる学校
三つの方針	具体的目標
	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー) 校訓に掲げる校規五章及び綱領三徳目を踏まえ、地域社会の要請や生徒の実態に基づき、128年の歴史と伝統を継承しつつ、新たな校風を確立し、社会に貢献できる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材の育成 (1) 高い理想と旺盛な探究心を持って学習に精励する生徒 (2) 集団の規則を遵守し、確固たる責任感をもって自律的に行動する生徒 (3) 心身を鍛錬し、強靱不屈の精神をもって、不断に前進する生徒 (4) 本校の伝統的精神を生かし、愛校心をもった全人的な生徒
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー) (1) 生徒が能動的学習者となるような、教育内容の充実と指導方法の工夫改善 (2) 生徒一人一人に合った高いレベルでの進路希望の実現 (3) 各種学校行事及び部活動の充実 (4) 安全教育、健康教育、人権教育、心の教育、主権者教育、道德教育、情報モラル教育による豊かな人間性の育成
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー) (1) 本学の学びに対する興味関心が旺盛で、深く探究しようとする強い意欲のある生徒 (2) グローバル化する社会の様々な事象に関心があり、英語等の言語習得及び異文化理解に積極的に関わろうとする生徒 (3) 自分の進路実現に向かい、挫折や失敗を恐れず、主体的に努力を継続することができる生徒 (4) 学校行事、生徒会活動、部活動などにリーダーシップをもって積極的に取り組む意欲のある生徒

別紙様式2（高）

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
本校では「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善に取り組んでおり、生徒アンケートでは約90%が授業を「分かりやすい」と評価している。また、生徒の約85%が能動的に学習していると回答しており、探究的な姿勢も育ちつつある。今後は、課題解決型学習やプロジェクトベースドラーニングの導入を進め、デジタル技術を活用した学習活動のさらなる充実が求められる。 進路指導においては、今年度の国公立大学への現役合格者が東京大学・東北大学を含め123名にのぼり、現役での進学率も94.3%と非常に高い。私立大学でも早稲田、上智、東京理科大、GMARCHなどに多数の合格者を輩出し、着実な成果を挙げている。「チャレンジ・プロジェクト」や探究活動も生徒から高評価を得ており、学習意欲の向上につながっている。一方で、少子化の影響で学力差が拡大しており、個々の希望や実態を把握したきめ細やかな進路支援が今後の課題となっている。また、基礎学力の底上げや、思考力・表現力の強化、入試の多様化・早期化への対応も急務である。 生徒指導については、ほとんどの生徒が社会的責任やマナーを身につけているが、一部に規範意識の低さが見られ、SNS利用なども含めた道徳的指導の充実が必要である。いじめ防止にも引き続き早期発見・早期対応が求められる。特別活動では部活動加入率が90%を超え、多くの生徒が学習と部活動を両立している。行事運営では、生徒の創造性と自主性を引き出す工夫がされているが、負担の偏りを防ぐ運営体制の見直しが必要である。 教職員の健康面では、時間外勤務の削減が課題であり、デジタル化と業務効率化、組織体制の見直しによる働きやすい環境の整備が求められている。	探究的な学びの推進	① 自ら社会課題を見つけ、課題解決に向けてチャレンジし、他者との協働により解決策を探究することができる知識・能力・態度を身に付ける教育（アントレプレナーシップ）を推進する。 ② デジタルの活用により、協働的・探究的な学びを推進するとともに、個に応じた柔軟かつ多様な支援を充実させる。さらに、習熟度別授業を取り入れ、理解が不十分な生徒への対策を強化する。	A
	授業改善による学力の向上と進路指導の充実	③ 確かな学力（知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度）をバランス良く育成するため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業力向上（授業改善）を推進し、魅力ある授業を実施し、「授業満足度」の平均値3.0以上を目指す。 ④ 指導と評価の一体化（観点別評価の充実）を実施する。また、教育課程や入試はもとより、大学・研究機関・企業等が導入している新しい学習分野についての研究を更に深め、それらの動向に即応した指導のあり方を追究していく。	A
	特別活動の活性化と健全な心身の育成	⑤ ホームルーム活動や学校行事、部活動等への積極的な参加を通して、強い精神力や協調性、自主自律の精神を育む等健全な心身の育成を図る。またキャリア・パスポートの活用を推進し、生徒が自ら活動を振り返り、検証する姿勢を育てる。 ⑥ 学校行事の改善充実を図るとともに、生徒の自主的活動を支援していく。 ⑦ 茨城県および本校の部活動運営方針に則り部活動の活性化を推進し、1年生の部活動加入率90%以上を維持する。 ⑧ 外部指導者の活用や指導者講習会等への積極的な参加を奨励し、生徒の安全面・健康面に配慮しながら指導力向上を図り全国大会など県外大会出場を目指す。	A
	人間尊重の精神の涵養と規律ある生活習慣の確立	⑨ 自律の精神や自己指導能力の育成を図り、相手の立場に立って考え、行動できる人間の育成を努める。 ⑩ 規範意識の高揚を図ると共に、制服の正しい着用や礼儀正しい態度を育成し、校則違反者0名を目指す。 ⑪ 基本的な生活習慣の確立を努め、メリハリをつけた行動が取れる人間の育成を努める。	A
	環境美化を通じた心の教育	⑫ 清掃活動の徹底を図り、環境美化に対して主体的活動ができる態度の養成を努める。	B
	広報活動の推進と地域との連携強化	⑬ ホームページやSNS等を活用し、積極的な情報発信を行い、「開かれた学校づくり」に努める。 ⑭ ボランティア活動への積極的な参加を推進し、地域との連携強化を図る。 ⑮ 学校説明会の充実を努めると共に、小学校・中学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。 ⑯ 学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し、情報の公開を努める。	A
	いじめの未然防止、早期発見、早期解消の確立	⑰ 授業やHR活動などあらゆる教育活動を通して、豊かな情操と道徳心を培い、心の通う対人交流能力を養うことで、いじめを生まない環境や学校風土を作る。さらに生徒のささいな変化（違和感）を見逃さないよう、生徒をよく観察するとともに、定期的な面談を実施し、教職員と相談しやすい関係の構築を努める。 ⑱ 生徒の命を守るため、いじめ等の事案に対しては校内連携（複数対応）を図り家庭との連絡を密にする。また、必要に応じてスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・外部機関等とも連携をしていく。 ⑲ 情報モラル教育を推進し、SNS等を通じて行われるいじめの未然防止と早期発見を努める。	B
	教職員の健康保持	⑳ デジタルを活用して諸業務の効率化を推進し、それぞれの立場で小さな改善を積み重ねる。	A

別紙様式 2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	基礎学力の充実・向上を図る。 自主学習の習慣を確立する。	朝の小テストを実施し、語彙力等の基本的な国語力を身に付けさせ、不十分な生徒には課題等を用いて基礎学力の向上を図る。 ③④	A	B	探究活動の活発化、大学入試における学校推薦型・総合型の増加を受け、基本的な書く力・話す力の育成を国語科の立場から支えること
			休業日前あるいは長期休業の前に課題を提示したうえ、休み明けに点検し、さらに、確認のテストを実施するなどして家庭学習の習慣を付ける。 ③	A		
		授業改善を行うことで、生徒の学習意欲を喚起する。	放課後または長期休業中に課外を実施する。3学年においては進路別、学力別に実施し、自分の目標や学力に応じて学習をする機会を増やし、進路実現に向けて努力を促す。 ①③④	B		
			主体的・対話的で深い学びの実現を目指して、表現や意見を発表する機会を増やすとともに、アントレプレナーシップ教育を推進する。 ①③	B		
			ICTの活用を通して、協働的・探究的な学びに対する積極性を育てることや、業務の効率化を模索することにつなげる。 ②④②①	B		
			読書や小論文作成の時間を設定し、自己を取りまく環境や社会に対する幅広い関心を育て、そこから国語に対する学習意欲をさらに喚起する。 ②③④	A		
地歴公民		授業改善による基礎学力の充実・向上を図る。	小テストの実施や準拠ノートなどの利用で、知識の定着度を定期的に確認する。 ③	A	B	- 教科書を終わらせるためにも、授業時間の確保が必要 - 新課程の科目のうち、1・2年生で学ぶ科目との接続 - 成績不振者への対応 - 中～上位層をどう伸ばすか - 進路決定者や科目を絞る生徒が出た際のモチベーションをどう維持させるか。 - ICT機器の最善の活用方法
			授業改善を行った上での計画的な授業指導のもと、教科書をしっかりと計画期限内に終わらせることを心掛ける。 ①③	B		
		大学入試や大学での講義に対応できる学力を身に付けさせる。 生徒の表現力を育成する。	授業改善を行うことで、平常課外やハイレベル課外、夏季休業中や冬季休業中の課外等を通じて、大学入学共通テストをはじめ、国公立大学の個別試験や私立大学の一般入試に対応できる学力を付けさせる。 ②③④	A		
			プリントや地図、資料集などを使用し、多くの教材を活用することで、生徒が自ら意欲的に授業に参加できる体制を整える。また、相互授業参観を通してより良いアクティブ・ラーニングを実践し、生徒自ら考える授業を展開する。 ①③④	B		
				B		

別紙様式 2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	数 学	基礎学力の充実・向上を図る。	定期考査に加えて、適宜単元テストを実施する。さらに、学習内容の定着が不十分な生徒には、個別指導や課題等により適切なフォローを行う。 ②③	A	A	・週末課題から自主的な学習への転換 ・上位層の養成に向けた指導方法の検討
			週末課題を課すことで、学習を習慣化させる。また、課題の内容から小テスト及びその追試験を実施することで、学習内容の定着状況を把握させ、学習法の見直しに繋げる。 ③	A		
		自主学習の習慣を確立する。	教科書傍用問題集を週末課題とし、定期的に確認を行う。 ③	A		
			各単元において、指導と評価の一体化を実現する。振り返りをさせることにより自分に必要な学習内容を意識させ、自主的学習を促す。 ③④	B		
		授業改善を行うことで、生徒の学習意欲を喚起する。	課外等を利用して、ハイレベルな問題や教科書の内容を超える問題も扱い、深く思考する時間をつくり、応用力の養成と興味関心の喚起を図る。 ①②③	A		
			学び合いや教え合いの活動を通して、協働的な学びや主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。またそれに向けた授業改善を行う。 ③	B		
	理 科	生徒の学習意欲の喚起を図る。	授業方法を研究し、生徒が主体的・対話的に学べるような授業を展開する。 ①③	A	B	・重点項目を明確に示した授業を展開することが不足していた ・時間がなく、多くの種類の生物を飼育、栽培できなかった。来年度は計画的に育てたい(生物)
			生徒用端末の活用法を研究し、協働的・探究的な学びを促す学習指導に取り組む。 ①②	C		
		授業改善を行うことで、基礎学力の充実・向上を図る。	授業で実物に触れる機会を設け、生徒の興味・関心の向上を図る。 ①③	B		
			効果的に I C T を活用し、よりわかりやすい授業を展開する。 ②③	B		
			カリキュラムマネジメントに努め、学習指導および学習評価の改善を図る。 ④	B		
			小テストや課題などを適宜活用し、基礎学力の向上を図る。 ③	A		
	保 健 体 育	基礎学力の充実・向上を図る。 自主学習の習慣を確立する。	毎時間、ワークシートに記入させ振り返りをさせる。スキルテストを定期的に行う。 ①	A	A	・体力の向上を、さらに目指す ・I C T の活用をさらに推進する
			保健ノートを活用させる。各自の端末を活用し、自らから調べた事を発表し共有させる。 ①②③④	A		
		授業改善を行うことで、生徒の学習意欲を喚起する。	毎時間、授業内容に沿った問題を提議し、自らの考えを記述させる機会を設ける ①③	A		
			技術や試合について記録させ、次の活動に反映させる。 ①②③	A		

別紙様式 2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科 芸術		授業改善をおこなうことで基礎学力の充実・向上を図る。	教材内容を精選し、教師自らが授業の中で実際に範を示すを含め、アクティブ・ラーニングを取り入れながら生徒の感性を刺激し育むことに留意する。 ①③	A	A	・ICTを生かした授業内容の改善を充実させ、探究的な学びをより深めていきたい。 ・生徒用タブレット端末の使用頻度をさらに定着させる。 ・鑑賞学習に力を入れ、豊かな感性の育成に努める。
			個に応じた指導充実を図り、個々の学習状況を細やかに見取りながら適切な評価に努める。 ②④	A		
		生徒の学習意欲を喚起する。	表現する場や意見を発表する機会を増やし、主体的に学習に取り組む姿勢を育てる。 ①②	A		
			ICTを効果的に活用した授業を研究し、協働的・探求的な学びにつながる授業展開をするとともに、アントレプレナーシップ教育を意識した柔軟かつ多様な指導を充実させる。 ①②	A		
		直に芸術作品に触れる機会を提供し、感性を育む。	教師自ら、芸術分野の研修・研究に努め、生徒が芸術作品のよさを感じられるよう直に作品に触れる機会を提供するなど鑑賞学習を充実させ、表現の魅力や楽しさを伝える。 ①③	B		
英語		授業改善を行うことで基礎学力の充実と向上を図る。	単語集や問題集を活用して毎週小テストを実施することにより語彙力や文法力を高める。 ③	A	A	・「アウトプット活動」の成果の可視化と共有（具体的にどのような英語力向上につながっているのか） ・主体的・協働的な学びを通じた言語能力の確実な定着 ・ICTと外部試験を活用した学習習慣の定着と実践力の育成
			各教員が創意工夫し授業改善を行いつつ、基礎基本を徹底した指導に積極的に取り組み、言語能力の定着を図る。 ②～④	A		
		自主学習の習慣を確立する。	探究的な視点に立ち、自ら考え他と協働しながら問題解決に向かって行動できる生徒の育成を図る魅力有る授業を実施する。 ①～④	B		
			適切な課題を長期的計画を基に実施し、生徒の学習実態を把握し家庭学習を習慣化する。 ②④	A		
		生徒の学習意欲を喚起する。	ICTを活用して海外の新聞、ニュース等の「メディアの英語」に触れる機会を作ることによって生徒の英語学習意欲を喚起し、幅広い知識と実践的な英語を身につけさせる。 ②～④	B		
			英語関連の外部試験の受験を推奨し、その試験対策指導を教員間の連携の元に行う。 ④	A		
			スピーチ等の自己表現力を伸ばす指導を取り入れ、思考力・表現力・主体的に学習に取り組む態度を育成する。またその過程を観点別評価として適切に取り入れる。 ②～④	A		
家庭	主体的学習を促すよう授業内容の精選・授業改善を図る。	体験レポートの実践、ホームプロジェクトの実践を通し、アントレプレナーシップ教育を意識しながら、主体的な学習態度を促す。 ①②④	B	A	・引き続き実践的な体験学習を充実させる。 ・各単元の内容に沿った自身の課題を見つけ、解決にむけて考える時間を取り入れる。	
		「主体的・対話的で深い学び」を目指し、授業内容を精選し、アクティブ・ラーニングの授業充実を目指し、学習形態を工夫する。 ①②③	A			
		自立を目指し、生活力の向上を図るための知識や技術を身に付ける。	調理実習・被服作品製作実習・その他の体験学習を積極的に取り入れ、家庭生活に必要な知識や技術の習得を図り、実生活に役立てられるようにする。 ①②④			A
情報		授業改善を行うことで、基礎学力の充実・向上を図る。	個に応じた指導を通して、コンピュータ利用の円滑化に努める。 ②	B	B	・栃木県立高等学校での暴力動画拡散事件を踏まえ、情報モラルについて時間をとって指導する。
			新教育課程、大学入学共通テストについての研究を深め、それらに即した指導の在り方を追究する。 ②③	A		
		探究的な学びを推進する授業を行う。	情報教室の生徒用端末を使って収集したデータを解析し、まとめて発表させる授業を展開する。 ①③	B		
		情報モラルを確立する。	安全なインターネットの使い方及び情報モラル指導の充実を図り、ネットトラブルの未然防止に努める。 ⑯	B		

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への 主な課題
教 務	授業改善による、探究的な学び（アントレプレナーシップ教育）の推進を図り、指導と評価の一体化を目指す。	探究的な視点に立ち、自ら考え、他と協働しながら、自主的に問題解決に向かって行動できる生徒の育成を図れるような魅力ある授業を実施する。①～④	A	A	・教務部内で情報共有を行う機会がすくない。 ・授業変更簿や合字予定等については、D X 部の協力により、ペーパーレス化に成功し、業務の簡略・効率化と、生徒にとっての学習環境の質の担保を両立させることに役立った。 ・学校説明会や学校公開等の実施方法については更なる改善が必要である。
		授業担当者の出張・年休等に際しては、授業の振替を徹底する。また、急な変更が生じた場合にも、学年や教科等の協力を得ながら、授業時間の確保に努める。①～④	A		
		授業改善推進プロジェクトを有効活用し、授業改善を推進する。①～④	B		
		生徒による授業評価アンケート、学校評価アンケートの結果を授業改善に活用する。①～④	B		
		各教科と連携し、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3観点評価についての研修を進めていく。④	B		
		授業の開始時刻及び終了時刻の厳守に努める。①～④	A		
	校内諸データの整理と活用を進める。	学校全体に関わる統計データの収集・管理を的確に行う。⑬⑯⑳	A		
		進路指導部や各学年と協力しながら校務支援システムを有効活用し、考査等の処理、指導要録・調査書の作成をミスなく行う。㉑	A		
		資料等のペーパーレス化を推進する。㉑	A		
	学校広報活動の充実に努める。	学校説明会・学校公開等では、中学生にわかりやすく本校の特長が最大限アピールできるように努める。⑬⑮	A		
		学校HPやSNSを広報活動に活用するため、学校全体で共働し、HPを管理する。※⑬	A		
		小学校・中学校・学習塾等と連携することで、学校の広報活動を推進する。⑮	A		
生徒支援	基本的生活習慣を確立する。	登校指導及び巡回指導を通して校則の遵守(特に服装)と挨拶の励行を徹底させる。⑩	A	A	・トラブルの早期発見および解決。
		全職員が共通の認識を持って指導に当たる。⑨⑪	B		
	心の教育(規範意識とモラルの向上)を推進する。	高校生さわやかマナーアップ運動を通じて規範意識の向上を呼びかける。⑩	A		
		いじめが起これないように級監、授業担当者を中心に生徒たちの様子を観察し、面談等で生徒が相談できる時間をつくる。心のケアのためにスクールカウンセラーの活用も努める。⑮⑯	B		
		携帯安全教室等を通して、情報モラル教育の充実に努める。⑯	B		
	交通安全教育を推進する。	バイク・自転車点検を年間行事予定に組み込むと供にバイク通学者実技講習会を実施し、交通安全に努める。⑨	A		
		集会等で交通マナーに関して注意し、交通安全を呼びかける。⑨⑩	A		
探究推進	総合的な探究の時間～為桜探究～の充実に図る。	探究スタッフと各学年主任との探究部会を定期的に行い、生徒にとって最適な活動を企画実行するよう努める。①②⑤⑥⑬	A	A	・外部機関との連携・「連携する」だけで終わらないように、目的やニーズに応じた外部企業・専門家との連携が求められる。
		評価および振り返りの方法を工夫し、自己の在り方・生き方についての思考を促す。①⑨⑰	B		
		地域社会との関わりやゼミ活動における外部講師との関わりを通して、探究コンソーシアム構築の中核を担う組織づくりを目指す。①②④⑬⑭	B		
		IBARAKI ドリームパスやその他ビジネスコンテストなど、学校外における生徒の発表の機会を拡充する。①⑬⑰	A		
	英語力の向上および国際的視野の育成を図る。 図書委員会活動の充実に図る。	I G P 海外派遣事業を実施し、実践的英語力の向上および国際的視野の育成を図る。①⑥	A		
		スピーチコンテスト等外部大会への参加を促すとともに、生徒へのサポートを充実させ、上位への入賞を目指す。①⑥⑧	A		
		仏エソンヌ県との交流事業をより活発なものとし、生徒の国際理解をより深める。①⑥	A		
		図書委員会活動を活発にし、ビブリオバトルの企画・運営、為桜図書の発行など、生徒の自主的活動を支援する。①⑤⑥	A		
	図書館利用を促進する。	図書館と蔵書(電子書籍)の活用率の向上のため、広報活動の充実やリクエスト用紙の活用を徹底する。①③④⑬	A		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
進路指導	生徒の主体的な進路選択を促すための各種支援を実施することで、学力向上を図るとともに、希望進路に対する視野を広げるための支援を行う。	「学びの基礎診断」(スタディサポート等)を活用して各生徒の進路希望の動向や学習状況等の把握に努め、適切な指導・助言、および評価を行う。 ③④⑪	A	A	・新しい入試形態や新学習指導要領に関する研究・研鑽の深化 ・難関大学進学支援の深化・拡充
		チャレンジ・プロジェクトの進路探究、教育学部進学支援等の実施を通じて、各生徒の職業観の育成を図るとともに、自ら見出した社会課題の解決を意識した進路決定を促す。 ①②⑤⑥⑨	B		
		「大学進学要覧」等の資料を活用して、卒業生の大学入試に関する数値的情報や経験談を在校生へと還元し、併せて在校生向けの「卒業生との懇談会」を企画する。またホームページの活用を通して、進路情報の発信に努める。 ⑤⑬	A		
		オープンキャンパスや外部模試への参加を促すとともに、出前授業、進路講演会等を実施し、大学入試に関する早期の意識づけを図る。また、「東大金曜講座」受講など通じて、高度な学問分野に対する関心・意欲を刺激する。 ①②③④⑥	A		
		出願検討会や模試分析会を実施し、生徒の進路希望や現況を職員間で共有することで、個々の生徒に対しより高い目標設定を促す。また、年度末に職員進路情報交換会を実施して、第3学年団の指導の成果および反省点を次年度以降へと継承する。 ②④	B		
		大学入試の多様化に対応すべく、様々な入試方式に応じた指導体制を整え、新しい入試形態や新学習指導要領に関する研究・研鑽に努める。 ②③④			
	学習指導・進路指導に関する研究と情報収集を進め、指導の改善に努めるとともに、生徒・保護者への還元を図る。生徒の学習環境の改善と向上に努める。	学習館の適切な管理を通じて、生徒へより良い学習環境を提供する。同時に生徒の自学自習の習慣化を図る。 ⑤⑥	A		
		平常課外や長期休業中課外、難関大学志望者向けの学習方法講演会を実施し、生徒の学習活動の発展・深化の契機とする。 ②③	A		
		高大接続改革の流れを見据えて、職員が進学指導研究会や各種セミナーに参加し、情報収集と指導力の向上に努める。得られた情報は、HR、集会、面談などあらゆる機会を捉えて、生徒及び保護者に還元する。 ②③④⑬⑮	B		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への 主な課題
特 活	伝統校の磨き上げを行い、帰属意識・協調性の涵養に努める。	下妻一高のブランド力を高める活動や生徒会を主体とした行事を通して、学校行事の企画・運営 ①⑤⑥	B	A	・学校行事等を通して、さらに愛校心や自己肯定感を養うような活動をおこなう。 ・文化祭や踏破会などを、生徒会を中心とした生徒自身が企画や運営することを目指した。
	生徒の自主的活動の機会を増やす。	校内等の美化・校内外のボランティア活動を通し、ボランティア精神を育成する。 ⑫⑬⑭	A		
	生徒の自主的活動の機会を増やす。	定期戦、為桜祭、為桜オリンピック、踏破会等の学校行事を通して、成就感・達成感を体験させ、併せて学校やクラスの連帯感を養うと共に、学校生活の活性化を図る。 ⑤⑥	A		
	生徒の自主的活動の機会を増やす。	部活動への積極的な取り組みを促し、心身を鍛え、文武不岐の精神を養う。 ⑦⑧⑩	A		
	自尊感情を育み、周囲と円滑な生活を送る。	ホームルーム活動、学校行事等を通し、他者に対する寛容な姿勢を身に付けると共に、協調性を育む ⑤⑥⑨	A		
保健環境	生徒が様々な役割や価値を自ら判断できるよう、振り返りを大切にする。	ホームルーム活動を中心とし、学校行事全ての教育活動において、キャリア・パスポートを利用して生徒が自己評価できる場面を組織的に働きかける。 ⑤⑨	B	A	
		健康診断、保健調査、献血活動協力を適確に実施する。 ⑤⑨⑪⑫	A		
		保健室での傷病者の救急処置や休養指導を適切に実施する。 ⑫	A		
		専門家と連携し、性教育指導や心の教育を実施する。 ⑤⑨⑪⑫	A		
		生徒のインフルエンザ等の感染症の状況を迅速に把握し、適切な対策指導を行う。 ⑫	A		
		健康相談により、生徒への精神的なフォローをすると共に、いじめの早期発見に努める。 ⑬⑭	A		
		トイレ、手洗い場等の衛生状況を定期的にチェックすると共に、洗浄液の補充を行う。 ⑪⑫	B		
	学習環境の整備に努める。	学校薬剤師と連携し、教室等の学校環境衛生に配慮する。 ⑪⑫	A		
		清掃用具の調査・補充・管理に努め、清掃指導を徹底し、意識の改善に努める。 ⑤⑨⑪⑫	B		
	生徒の安全確保を確立する。	各教室設置の黒板消しクリーナーを週1回洗浄し、大掃除では床のワックス掛けを実施する。 ⑤	A		
DX	デジタル活用による校務の効率化と利便性の向上	エアコンやファンの正しい使用法を徹底し、安全管理に努める。 ⑤⑨⑪⑫	A	A	・トイレ掃除を徹底し、衛生的な環境を維持する。 ・附属中学受験の関係で、カーテンクリーニングの日程調整やワックス掛けのタイミングを検討し、事務との相談の上実施する。
	サーバー・PCの適切な管理と運用	1学年は春季、全学年は秋季に防災訓練を実施し、非常時の安全対策を行う。 ⑤⑨⑪⑫	A		
	デジタル活用による校務の効率化と利便性の向上	校内Webに更なる改良を加えるとともに、FunAssist(生徒による生徒のためのサイト)との連携を図る。また、デジタルサイネージによる生徒への情報提供を行う。 ②⑩	A		
	サーバー・PCの適切な管理と運用	PCなどICT機器の整備、サーバーの管理を行う。 ⑩	A		
	サーバー・PCの適切な管理と運用	情報セキュリティの向上に努める。 ⑩	B		
	積極的な情報発信のためのオウンドメディアの管理	ホームページの改善に努め、YouTubeやSNS等の活用について研究し、必要な環境整備を行う。⑬	B		
渉 外	教育情報ネットワークアカウント等の適切な管理	第1学年と連携し、教育情報ネットワークアカウントの登録、MACアドレスの登録を行い、学習者用端末の円滑な利用を支援する。 ②	A	A	・校内Webの管理と運用 ・学校ホームページの充実 ・Classiの学習関連機能の活用推進
	教育情報ネットワークアカウント等の適切な管理	1人1台端末の活用について広く情報を共有し、授業改善に生かせるよう努める。 ②	B		
	P T A 活動の充実を図る。	P T A 総会を、I C T を活用し、より効率的に開催し、P と T 両方の負担軽減をはかり、有益なものにする。 ⑬	A		
渉 外	P T A 活動の充実を図る。	保護者も楽しめるような P T A 活動を進め、広報活動を充実させる。 ⑬	A	A	・引き続き P T A 活動への理解の推進し、人員と財源を確保していく。
	P T A 活動の充実を図る。	保護者も楽しめるような P T A 活動を進め、広報活動を充実させる。 ⑬	A		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第 1 学年	高校生としての学習習慣を確立させ、基礎力の定着を図る。	授業を中心とした「予習→授業→復習」の学習サイクルを促し基礎力の定着を図ると共に、アクティブラーニングなど発展的な内容を能動的に学習する機会を設けることで、主体的・対話的で深い学びの実現に努める。 ①③	A	A	・模試の事前・事後指導を充実させて、具体的な進路実現のための取り組みを促す。 ・進路LHRの機会を増加させる。 ・自発的な学習を促す取り組みをさらに深める。
		学習課題を適切なタイミングと内容で提示することで、生徒の学習活動を継続的かつ発展的なものとする。 ③	A		
		スタディーサポートや模擬試験の際には振り返りを行い、自分の弱点や課題に気づかせ、着実な学力の向上を図る。 ②	B		
		定期考査や課題テスト以外にも小テストや単元テスト等を実施して、生徒の基礎学力の定着度合を丁寧に確認していく。また、成績不振者に対しては、追試や補習を実施して学力の底上げを行う。 ③	B		
		準備・本番・振り返りによる模試の有効活用を通して、自身の学習の定着度を正確に測る。 ③	A		
	生徒一人ひとりの能力や適性に 応じた進路目標の早期設定を図る。	大学説明会、外部講師による講演会などの進路活動を通して自己の将来への関心を高めることで学習への意欲を刺激し、ひいては適切な学問、学部・学科、職業選択に繋げる。 ④⑤	A		
		進路意識・学習状況・生活実態等の各種調査を実施することで生徒理解に努める。それを個別面談に生かし、学習や進路決定に対するモチベーションを高め、具体的な目標設定を促す。 ④⑤	A		
		定期考査や課題テスト、外部模擬試験などを活用し、生徒の適性、学力の把握に努める。 ③④	A		
		2年次の文理選択に向けて進路に関する教育を充実させ、生徒の進路希望、適性、学力を総合的に判断し、適切な指導を行う。 ④	A		
		東大倶楽部への積極的参加を促し、難関大学志望の高い意欲をもつ生徒を育成する。 ③④	A		
	基本的生活習慣の確立と、他者の 立場や気持ちに立って考え行動 できるような心を養う。	家庭との連絡を密にし、生徒への声かけや面談等を随時実施すると共に、遅刻、早退、欠席の防止に努め、安定した学校生活を送らせる。 ⑨⑩⑪⑬	A		
		良好な人間関係の形成を支援し、いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応に努める。 ⑰⑱⑲	B		
		面談を通じて生活面での生徒個々の悩みや不安を把握し、適切な指導に努める。 ⑰⑱⑲	B		
	探究活動やチャレンジプロジェクトを通して、国際感覚を養い、 アントレプレナーシップを育成 する。	チャレンジプロジェクトへの積極的な参加を促し、自らの興味関心を高める。 ④⑤⑥	B		
		イングリッシュセミナーを通して英語への関心やスキルを高めるだけでなく、他国の文化や他国の人の関わりの中で、異文化への興味を養い国際意識を深める。また、自らの意見や考えを自らの言葉で発信する力を育成する。 ②⑥⑨	A		
		探究活動において、地域の課題に対する自分なりのアプローチを立案することで、多角的なものの見方や考え方を醸成する。 ①⑤⑥⑨	B		
	文武両道・凡事徹底・率先垂範の 実践を目指す。	学校生活全体を通して、学習と課外活動の両立、社会生活を営む上で必要な素養の定着、自ら進んで模範足る行動を起こすことができる人間性を育む。 ⑤⑥⑦⑧	A		
	広報活動の推進と地域との連携 強化	classiを積極的に活用し、学校生活の情報をこまめに発信する。 ⑬	A		
		学年PTAを開催し、保護者への情報提供や保護者からの意見聴取の機会を設ける。 ⑮⑯	B		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第 2 学 年	探究活動を通して、生徒の知識思考力・行動力の育成を図る。	自らが興味をもった課題を設定し、その解決に向けて主体的に活動し、自らが探究した成果をしっかりと説明できる生徒を育成する。 ①	A	B	・探究学習は、年間を通して活発であった。生徒が自ら課題を設定し、考え、成果を発表することが出来た。外部講師との交流もあり生徒にとって将来に役立つ活動ができた。
		設定した課題の調査、取材、また成果発表会でのプレゼンの資料作成等において、デジタルの活用により、協働的・探究的な学びを推進する。 ①②	A		
		外部からの講師を招いての講演会や探究ゼミを通してプロの方や第一線で活躍している方の考え方に触れ、広い視野を養う。 ①②	A		
	自主的・自発的な学習習慣を確立させて、基礎学力の定着とより発展的な学力の育成を図る。	確かな学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に取り組む態度）を育成するために I C T を利用するなど工夫した授業を推進し、生徒の学力を向上させる。 ③	A		・学習面では、普段の授業、課外、補習に熱心に取り組んでいた。先生方も模擬試験やスタディーサポートの結果を分析し、生徒への個別面談に生かしていた。
		土曜補習や長期休業中の課外における演習等を通して応用や発展的な問題に触れさせる。ハイレベル課外を通して、大学受験を見据えた発展的・実践的内容にも対応できる力を培うとともに、難関大を志望する生徒の育成を行う。 ③④	A		
		模試やスタディーサポートの結果を分析し、各教科で面談等を行い、生徒の学習に向かう姿勢を高める。 ③④	A		
	生徒一人ひとりの能力や適性に応じた進路目標の早期設定を図る。	大学のオープンキャンパスや講演会への積極的な参加を促し、自分の進路を考えさせ、進路実現に向けての具体的な行動を起こさせるようにする。 ④	A		・長期休業を使って大学のオープンキャンパスや模擬授業を受講する生徒が多かった。また、小論文ガイダンスを通して、大学入試に向けた小論文の書き方、添削を積極的に受講する生徒の姿が見られた。
		個別面談を随時行うことで生徒理解に努め、学習や進路決定に対する相談を受けたりアドバイスをし、具体的な進路目標の設定を促す。 ①④⑬	A		
		小論文模試や小論文ガイダンスを通して、書き方を学ぶだけでなく志望大学を意識させることで受験を自分事と捉えるきっかけとする。 ①④	A		
	規範意識を高め、規律ある生活習慣の確立を促すことで、自立した人間の育成に努める。	各家庭との連絡を密にすると共に、生徒への声かけや面談等を随時実施して、安定した学校生活を送らせる。皆勤者80名以上の達成を目指す。 ⑪	B		・各家庭との連携は級監の先生方を中心として年間を通してしっかりと出来ていた。
		集会・HR、修学旅行などの行事等を通して、協調性や規律を守ることの大切さについて考えることを促し、自律的に行動する姿勢を養う。 ⑥⑨⑩⑪⑬	A		
		面談期間等に個別面談を通じて生徒個々の実態を把握することで、適切な指導に努める。 ⑨⑬⑭⑮	A		
	いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。	修学旅行の平和学習を通して命や平和の尊さを学び、豊かな心と人間性を育てる。 ⑬⑭⑮	A		・修学旅行では、平和学習を通じて、命の大切さを学ぶことが出来た。 ・学校行事の様子や来年度の選択科目の説明など学年PTAの資料を作成し、保護者に伝えることが出来た。
		授業やHR活動など教育活動を通して、豊かな情操と道徳心を培い、いじめを生まない環境や学校風土を作る。 ⑬	C		
		部活動や学校行事等での友人との関わりを通して個性や多様性を理解させ、人への思いやりの心や豊かな人間性を育てる。 ⑨⑬	C		
		清掃活動の徹底、及び環境を美しく保とうとする姿勢を涵養し、あわせて周囲に対する気配りや思いやりの心を育てる。 ⑫⑬	B		

別紙様式 2 (高)

	文武不岐の実践を目指す。	各種行事、部活動への積極的な参加を促し、生徒の自主性やリーダー性の育成を図る。更に行事への参加を通じて得られる自己肯定感や達成感を共有することで、クラスの連帯感を育む。⑤⑥⑦	B	
	広報活動の推進および地域との連携に努める。	生徒の活動を積極的にホームページにて発信し、保護者や地域からの理解に繋げる⑬	A	
		学年 P T A を通じて、学年の取り組みや進路に関する情報を積極的に保護者に提供することで、家庭との連携を図る。⑬	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第 3 学年	生徒一人一人の進路目標達成のため、進路指導・学習指導の充実を目指す。	模試の分析、進路検討会、三者面談、また級監との日々の面談の充実を図り、生徒一人一人のニーズに合った進路実現を目指す。①④⑳	A	A ・生徒との二者面談は、要所を抑えた、生徒にとってタイミングのいいところでの実施となり、進路を考えるうえで効果的であったと思う。 ・外部講師の講演会は、6月に難関大学志望者向け、10月に学年全体向けで行った。全体向けの講演会は、例年と違い、9月末に共通テストの出願が終了し、また10月の共通テスト本番とドッキングする大切な2回の記述模試前というタイミングで実施した。これからいよいよラストスパートに入っていく重要な時期であったので、いいタイミングであったと思う。 ・国公立大学・私立大学問わず、面談、出願検討会など手厚く指導することができた。私立大学の受験向けの課外授業をもう少しできてもよかったかもしれない。 ・何よりも大切なのは、生徒、保護者、学校の三位一体の連携であると確信する。どんな些細なことでも迅速に保護者に連絡を取ったこと、また生徒支援部長、管理職との連携がしっかりと取れていたことが、大きな事件もなく1年間を過ごすことができた何よりも大きな要因だと思う。
		学年集会、外部講師の講演会、学年通信の発行など様々な媒体を利用して、生徒に進路や受験の情報を積極的に提供し、進路実現に向けて安心して学習に取り組むことができるようにする。④⑬	A	
		チャレンジプロジェクトで実施されている講演会への積極的な参加を促し、進路実現に向けての具体的行動を起こさせるようにする。また、小論文模試や小論文ガイダンスを通して、書き方を学ぶだけでなく志望大学を意識させることを目指す。④	A	
		県内の大学とより深くかかわりあい、地域に根差した進路実現を目標とする。筑波大学、茨城大学、茨城県立医療大学の合格者40名以上を目指す。①④	B	
		放課後や長期休業中の課外における演習等を通して応用や発展的な問題に触れさせる。これらの課外を通して、大学受験を見据えた発展的・実践的内容にも対応できる力を培うとともに、難関大を志望する生徒の育成を行う。難関国公立大学合格者10名以上を目指す。①③	B	
	自主的・自発的な学習習慣の確立を目指す。	放課後や長期休業の午後の課外授業を完全希望制で行い、今自分が必要とする教科・科目を自分の責任で選択し参加をすることで、受験に向けて、自分で考え、計画し、取り組む姿勢を養う。①⑥	A	
		授業後や放課後など、教科担当者のところに生徒が自主的に質問に來たり、また生徒同士がお互いに教え合うような受験に向けた雰囲気を作る。①⑥	A	
	生徒たちに対して、学年全体で寄り添い、生徒の悩み、またいじめなど早期発見に努める。	授業やホームルームでの生徒の様子に注意を払い、生徒が発する変化の兆候を見逃さないようにし、問題を未然に防げるよう努める。⑭⑮	A	
		一人の生徒を指導するという姿勢ではなく、あくまでも支援をするという気持ちをもって対応する。その時、教員一人ではなく、学年全体でその生徒を支援するようにする。⑭⑮	A	
		悩みを持っているへは、学年会などを通して学年の教員間で共有し、さらに生徒支援部長、また管理職へ詳細を迅速に報告をすることで、即対応できるようにする。⑭⑮	A	
	広報活動の推進と、保護者及び地域社会との連携を図る。	保護者向け「Classiマガジン」を定期的に配信し、学年での取り組みや今後の予定、また生徒の様子を伝えることで、学年と保護者との連携を密にする。⑬⑯	B	
		学年 P T A では、進路講演会を実施したり、また受験や進路に関する情報を積極的に提供することで、各家庭で生徒のバックアップをしやすくするような体制づくりをする。⑬⑯	B	

※ 評価基準：※ 評価規準： A：十分達成している B：達成している C：概ね達成している D：不十分である E：できていない